

### 3. 2 協会・支部等の活動事例

各地の建設業協会や支部・部会は、自然災害の復旧や防災支援を始め、河川・道路清掃や草刈などの環境美化、各種催し等による住民とのふれあい、地域の防犯活動など、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

平成 24 年度に顕彰した協会・支部等のこうした活動事例の中から、3. 1 で紹介した代表事例のほか、ここでは次の 16 事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	岩手県	(一社)岩手県建設業協会	東日本大震災復旧・復興活動
A1-02	宮城県	(社)宮城県建設業協会	東日本大震災における復旧支援等活動
A1-03	福島県	(一社)福島県建設業協会	東日本大震災の復旧支援活動
A1-05	岐阜県	(一社)可茂建設業協会	台風 15 号による災害応急復旧活動
A1-06	京都府	(社)京都府建設業協会 船井支部	国道 9 号水原地区の国道遮断災害復旧支援活動
A1-07	奈良県	(社)奈良県建設業協会 十津川支部	紀伊半島大水害災害復旧支援活動
A2-01	長野県	(社)長野県建設業協会 大北支部	国道・県道環境整備事業での草刈ボランティア
A2-02	岐阜県	(一社)岐阜県建築工業会	長良川清掃ボランティア事業
A2-03	岡山県	(社)岡山県建設業協会 津山支部	「道路ふれあい月間」における道路清掃奉仕活動
A2-04	山口県	(社)山口県建設協会 柳井支部	クリーンアップ作戦で地域をきれいに!
A3-01	岩手県	(一社)岩手県建設業協会 奥州支部青年部会	建設業ふれあい事業
A3-02	長崎県	(社)長崎県建設業協会 対馬支部	第 14 回 土木の日 in 対馬 2011
A4-01	北海道	(一社)旭川建設業協会	1 ヶ月早いクリスマス
A4-02	長野県	(社)長野県建設業協会 松筑支部	春季・秋季ふれあい献血活動
A4-03	佐賀県	(社)杵島建設業協会	献血推進活動
A5-01	北海道	(一社)留萌建設協会 萌志会	「小学生への建設業現場見学会」の開催

## (1) 災害復旧支援活動

協会及び支部等の災害復旧支援活動として、次の6事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A1-01	岩手県	(一社)岩手県建設業協会	東日本大震災復旧・復興活動
A1-02	宮城県	(社)宮城県建設業協会	東日本大震災における復旧支援等活動
A1-03	福島県	(一社)福島県建設業協会	東日本大震災の復旧支援活動
A1-05	岐阜県	(一社)可茂建設業協会	台風15号による災害応急復旧活動
A1-06	京都府	(社)京都府建設業協会 船井支部	国道9号水原地区の国道遮断災害復旧支援活動
A1-07	奈良県	(社)奈良県建設業協会 十津川支部	紀伊半島大水害災害復旧支援活動

### 事例 A1-01 : 岩手県

#### 東日本大震災復旧・復興活動 ((一社)岩手県建設業協会)

東日本大震災は、東日本一帯に甚大な被害をもたらした。岩手県は特に、沿岸部沿いの市街地は壊滅的な状況で、県内全域が停電し、電話が不通となり大混乱となった。災害は、死者・行方不明者が約6千人、家屋の倒壊が2万4千棟を超える大きなものとなった。東日本大震災は、岩手県建設業協会の会員、その従業員などにも多くの犠牲者を出し、会社社屋も流出するなど甚大な被害を与えた。



岩泉小本地区



宮古田老地区



釜石地区



釜石平田地区

### ■災害対策本部の設置

岩手県建設業協会は、地震当日の3月11日に災害対策本部を立ち上げるとともに、14日には緊急支部長会議を開催し、会員の安否確認、国・県等との密接な連携、沿岸地域への内陸部からの支援等を決めた。さらに、内陸部の会員の資機材保有調査を実施し、国・県に情報提供をした。

余震が続く中で会員は、道路の啓開作業、損壊した道路や橋等の応急工事、がれきの撤去及び応急仮設住宅の整備に当たった。また、内陸部の会員も啓開作業やがれきの撤去、救援物資の搬入などを行った。



ボランティアの土砂撤収作業

### ■復興への道

岩手県建設業協会は、今後も復興に向けて国・県・市町村等とともに総力をあげて取り組んでいく。今回の災害対応の教訓を踏まえ、燃料や応急資機材の備蓄、通信体制の整備、緊急時の事業継続計画（BCP）の策定などに力を入れていく方針である。今後も引き続き、被災情報の収集や応急・復旧対策の最前線に立ち、地域の住民生活や産業活動を支える社会基盤の整備・維持管理を行う基盤産業として、住民の生命と財産を守っていく考えだ。



大槌町吉里吉里で入浴施設をつくる



青年部会による気仙沼市での給水活動



起機重機船にこいのぼり「がんばれ岩手」

## 東日本大震災における復旧支援等活動（社）宮城県建設業協会

東日本大震災の大津波は、宮城県では南三陸町、気仙沼市、石巻市、東松山市、仙台市などの沿岸部を襲い、尊い人命が失われた。宮城県の死者数は約 7 千人、行方不明者約 1 万 6 千人を超えた。震災による被害額は全体で 2 兆円を超えており、宮城県内だけで 6 億 9 千万円を超える莫大なものとなった。

## ■災害緊急対応への取り組み

宮城県建設業協会では、地震発生後 40 分程で災害対策本部を設置し、支部と連携して緊急対応にあたった。震災当日 22 時には、宮城県震災対策本部から道路被災状況把握の要請があり、翌日早朝 4 時より会員約 200 社で、国道 4 号～沿岸部道路の緊急パトロールを実施した。

震災発生から約 2 週間では、同協会員 252 社のうち東日本大震災で甚大な被害を受けた沿岸部の会員を除いた 213 社（延べ 2 万 5,996 人）が災害緊急復旧工事の対応にあたった。東北地方整備局、宮城県との災害協定に基づき出動した回数は 906 回にのぼり、物資輸送道路の確保や被災者救援を優先的に進めるため、バックホー 1,028 台、ダンプ 1,941 台を稼働させて作業を行っている。



大津波に襲われた仙台港



女川市市街 2km 四方が津波で壊滅状態



気仙沼港湾での啓開作業



若林区井土地区の道路啓開



津波で分断された県道の緊急復旧

会員企業のなかには、会社が浸水したり、従業員の自宅が津波で流されたりと、自ら被害を受けた者も多かった。こうした状況下でも会員は、地域の安全・安心を支える地元建設業者としての使命感と誇りを持ち、昼夜を問わず24時間体制で、今までに経験をしたことのない様々な震災対応に尽力した。

道路啓開作業終了後は、4月頃まで自衛隊・消防・警察と共同で遺体捜索を実施した。あわせて、一般廃棄物の23年分に相当する規模のがれきの本格的な撤去に向けて、同協会本部・支部が役所との窓口を一本化した。地域住民ともコミュニケーションを図りながら作業を実施し、各地域の道路・宅地のがれき撤去を目標時期よりも早く完了し、地域に安心を提供することができた。

### ■災害緊急対応への取り組み

ライフラインが遮断され、大津波による落橋やがれきの山で、道路の判断もできない苛酷な状況下で、住民の避難、道路の啓開作業をいち早く実現できたのは「地元の地象、地形、実情を把握している地元建設業者であったからこそ」と高い評価を得ている。この協会組織をあげての献身的な活動に対して、平成23年7月に国土交通省東北地方整備局長より、平成24年2月に宮城県知事より感謝状が贈られた。



国土交通省からの感謝状



自衛隊と協力し遺体を捜索



地割れによる庭の沈下



手作業での河川のがれき撤去



若林区新井での農地のがれき撤去作業

## 東日本大震災の復旧支援活動（(一社)福島県建設業協会）

東日本大震災によって福島県内は、南相馬市、相馬氏、いわき市、新地町などの死者・行方不明者が2千名を数え、住宅被害は、全壊約7千棟、半壊約5千棟、一部損壊は4万棟を超えた。震災当初は一時、東北新幹線をはじめ鉄道各路線、東北自動車道、国道・高速道路・一般道とも広範囲で通行止めになり、電力・水道・電話通信・都市ガスなどのライフラインも寸断された。

## ■東電福島第一原発の事故

この震災で、双葉町と富岡町に立地している福島第一原子力発電所が、高さ15mもの津波を受けて原子炉の冷却装置が破壊され、大量の放射性物質が拡散される最悪の事故が発生した。原子力安全・保安院は1号機～3号機について4月12日、旧ソビエトで1986年に発生したチェルノブイリ原発事故に匹敵する「レベル7」に相当すると認定した。4月18日には半径20km以内が避難指示、30km以内が屋内待機を指定されるなど、住民が避難を余儀なくされ、現在も故郷に帰れる見通しが立っていない。福島県では、被災により約3万7千人の人口が減少したと発表している。

## ■災害対策協力本部の設置

福島県建設業協会では、震災発生翌日の3月12日に「東北太平洋沖地震災害対策協力本部」を設置し、災害対応を開始した。直ぐに同協会16支部に対して、協力本部設置の周知を行い、同時に、支部への協力本部の設置、管内の被災状況の把握と災害応急活動等に全面的な協力を依頼した。



いわき市の津波被災



土砂倒壊の復旧現場



がれき処理の様子



行方不明者の捜索

復旧支援活動では、自らも被災した相馬支部や双葉支部の会員が、放射線数値の高い区域内でも県警と協力して行方不明者を捜索したり、がれきの撤去を行った。他の地域でも、インフラ復旧だけでなく、学校をはじめとした公共施設の除染、土砂崩れ等による行方不明者の捜索など、昼夜を問わず復旧に取り組んだ。

### ■災害対策協力本部の取り組み

災害対策本部では、行政との連絡調整や資機材等の支援要請への対応、被災状況や応急復旧活動状況の把握を行った。

さらに、会員企業が円滑な応急復旧作業にあたるよう、施工中の現場の一時中止措置や工事代金の出来高代金の円滑な支払い、原発事故避難地域の会員企業の支援などについて、国土交通省等、関係機関に対して緊急要望を行った。

6月には「復興事業・原子力発電所事故損害賠償対策室」を設置し、原発事故に伴う会員企業等の損害賠償制度に関する情報の収集及び提供等に協力するとともに、放射線から地域住民が安心して生活できる環境を取り戻すための土壌実証実験にも取り組み、県の除染技術実証事業の選定を受けている。

また、生活再建のための応急仮設住宅に向けて、会員企業及び地元協力業者と連携し早期提供を実現し、平成23年10月に国土交通省より感謝状が贈られた。



国土交通省からの感謝状



応急仮設住宅の建設



仮設住宅の上棟式



学校での表土除染作業



保育園でも表土除染作業を実施

台風 15 号による災害応急復旧活動 ((一社)可茂建設業協会)

平成 23 年 9 月 13 日に発生した台風 15 号は、21 日 14 時頃には静岡県浜松市に上陸、各地に大きな被害をもたらした。岐阜県内でも各地で河川が氾濫、美濃加茂市では避難勧告が発令された。

可茂建設業協会は、台風 15 号の接近に伴い、20 日 13 時より「災害対策本部」を設置し、緊急時の出動体制を整えた。さらに、白川・唐澤川等の土嚢積等を実施し、被害の拡大防止に努めた。

被災箇所については、岐阜県からの要請を受け、会員の作業員、重機を投入し、緊急対応が必要な道路 5ヶ所、河川 48ヶ所の合計 53ヶ所について災害応急復旧工事を行った。

同協会では、平成 22 年 7 月に発生したゲリラ豪雨の際にも、10 日間にわたって被害の拡大防止、災害応急復旧工事を実施するなど、様々な形

で地域の安全を支えており、平成 23 年 12 月には全国防災協会から災害復旧・防止事業功労者として、団体として唯一表彰されている。他にも、道路清掃や花木の植栽等のボランティア活動を通年実施するなど、地域の安全を守り続けている。



社会貢献の紹介記事 (岐阜新聞)



美濃加茂市の浸水被害



御嵩町の復旧現場



矢戸川 (可児市) の復旧



(社) 全国防災協会からの感謝状



## 国道 9 号水原地区の国道遮断災害復旧支援活動 ( (社) 京都府建設業協会船井支部)

平成 23 年 6 月 8 日、京都府船井郡丹波町では、大雨の影響で国道 9 号水原地区の法面が崩落し、通行止めとなった。

京都府建築業協会船井支部では、国土交通省近畿地方整備局の協力要請に即時に対応、福知山河川国道事務局と協議し土砂除去を行った。その後、親杭横矢板工法による道路復旧作業を行い、迅速な国道解放を実現した。



夜間の誘導

しかし 9 月 20 日～21 日の大雨によって、再び水原地区が地山ごと動き出し、国道 9 号は道路封鎖により通行止めとなった。9 月 21 日には再度協力要請があり、復旧工事を行った。変位した地山は、親杭板工法だけでは抑えきれないため、押え盛土工法による工事を行った。

国道 9 号は地元の生活道路であり、京都府の基幹道路でもあるため、早期に通行止めから解放することが求められた。そのため、会員企業から作業員延べ 40 人、10t ダンプトラック延べ 60 台、大型重機 4 台、クレーン 1 台、大型土嚢 120 袋等によって、2 昼夜にわたる作業を行い、無事に 9 月 22 日 18 時に通行止めを解除できた。

船井支部の取り組みは住民から感謝され、行政機関からも高い評価を得た。



国道 9 号水原地区の法面崩落現場



土嚢による応急復旧作業



国道 9 号の復旧現場



押え盛土工法による復旧工事

紀伊半島大水害災害復旧支援活動（(社)奈良県建設業協会十津川支部）

平成 23 年 9 月 3 日、高知県東部に上陸した台風 12 号は、奈良県南部地域を中心に広い範囲で記録的な大雨をもたらし、大規模な斜面崩壊を多数発生させた。

この「紀伊半島大水害」は、奈良県内の道路を寸断、集落の孤立、ライフラインの壊滅を引き起こした。十津川村では、死者 4 名、行方不明者 8 名、建物全半壊 13 棟、孤立集落 10 地区と、明治 22 年の大水害に次ぐ被害となった。



国道 168 号の崩壊状況

奈良県建設業協会十津川支部では、災害発生直後から関係機関と連絡を密にとり、情報収集に努めた。十津川村の移動手段は道路しかなく、土砂崩れで寸断された国道 168 号（十津川道路）は「命の道」と呼ばれている。1 日も早い国道 168 号線の復旧、県道・林道の整備が必要だったため、十津川支部では被災の翌日から、道路や河川の土砂、流木等の除去を実施し、ライフラインの回復に全力で取り組んだ。

作業を行った会員の多くも被災者だったが、社会的使命を果たすため、培ったノウハウや高い技術を活かした復旧活動を実施し、村民の生活の確保を図った。

この支援活動は、被災地の早期復旧に大きく貢献し、村民を勇気づけた。



国道 168 号の桑畑路欠



国道 168 号折立橋崩落



十津川村での堆積土砂掘削・積込作業

## (2) 環境美化活動

協会及び支部の環境美化活動として、次の4事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A2-01	長野県	(社)長野県建設業協会 大北支部	国道・県道環境整備事業での草刈ボランティア
A2-02	岐阜県	(一社)岐阜県建築工業会	長良川清掃ボランティア事業
A2-03	岡山県	(社)岡山県建設業協会 津山支部	「道路ふれあい月間」における道路清掃奉仕活動
A2-04	山口県	(社)山口県建設協会 柳井支部	クリーンアップ作戦で地域をきれいに!

## 国道・県道環境整備事業での草刈ボランティア（(社)長野県建設業協会大北支部）

長野県建設業協会大北支部では毎年、建設業社会貢献活動推進月間行事として草刈ボランティアを実施している。本事業は、大町建設事務所管内の国道 148 号及び県道 3 路線の草刈りを行うもので、大北支部に属する企業 31 社が参加し環境整備を行うものである。

大北支部の環境美化活動は、昭和 45 年に国道及び県道の汚泥清掃を行ったことからスタートした。その後、昭和 50 年代にはスパイクタイヤによる粉じん処理を行っていたが、スタッドレスタイヤになり粉じんが減ったことにより、平成 3 年からは道路の草刈りを行っている。

平成 23 年は 7 月 7 日に実施し、会員 64 名、事務所職員 16 名の総勢 80 名によって、約 34km の道路の草刈りを行った。

大北支部の環境美化活動は、31 年にわたって継続されており、平成 24 年 6 月には国道・県道総延べ 34km の環境整備を続けてきた努力が認められ「豊かな環境づくり大北地域会議」より表彰された。大北支部では今後も継続して、地域の環境美化活動に率先して取り組んでいく方針である。



草刈機による除草



草刈ボランティアの様子

## 長良川清掃ボランティア事業（（一社）岐阜県建築工業会）

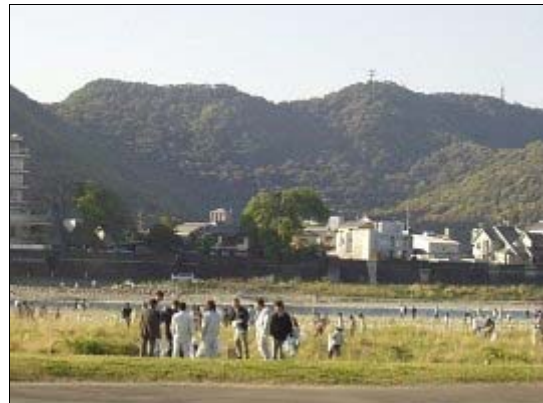
岐阜県建築工業会では、地域へのボランティアの一環として、清掃活動を実施している。同会では、平成 17 年度までは金華山の清掃活動を実施、平成 18 年度からは岐阜新聞・岐阜放送が主催する「長良川を美しくしよう運動」に参加し、岐阜県を代表する河川である長良川の美化活動に取り組んでいる。

長良川の本流の清掃活動は年間 3 回、鵜飼大橋上流・中川原～忠節橋下流までの両岸 4km で行われている。平成 23 年度は東日本大震災の影響で 1 回が中止となり合計 2 回の清掃活動の実施となったが、4 月 29 日には会員企業 28 社、従業員等 233 人が参加した。2 回目の 10 月 23 日には会員企業 25 社、従業員等 164 人が参加し、河川敷や堤防などの清掃を行いながら地域住民との交流を深めた。

岐阜県建築工業会では、この活動を毎年の恒例行事として実施しており、建設業の社会貢献活動へのアピールや建設業の理解を深める機会として、今後も継続して取り組んでいくこととしている。



長良川清掃活動現場



清掃活動の様子



長良川を美しくしよう運動の参加者

「道路ふれあい月間」における道路清掃奉仕活動（(社)岡山県建設業協会津山支部）

岡山県津山市は、古くから美作国津山藩の城下町として栄え、また出雲街道の宿場町として街道沿いには商家が建ち並び、商業の盛んな地域であった。現在でも当時の遺構や古い街並みが残り、街並み保存地区には当時から続く老舗が営業している、人口 10 万余を有する県北の中心都市である。

岡山県建設業協会津山支部では、この城下町のメイン通りを快適な空間として保全するため、地元津山市役所と連携して、平成 9 年から毎月 8 月の「道路ふれあい月間」に道路清掃奉仕活動を実施している。

第 22 回目となる平成 23 年 8 月 23 日には、市内幹線道路の城西通り～わかば通り、鶴山通り等、約 16km にわたる道路の清掃を行った。活動には、地元町内会や企業・団体からのボランティア等が参加し、合計約 1,650 人によって一斉に道路清掃が行われた。津山支部からは、支部所有の道路清掃車（スイーパー）1 台、会員保有のトラック 2 台を出動させ、ゴミ収集、小石等の除去作業を終日実施し、地域の環境美化と同時に、地域住民との交流を深めた。

この取り組みは、津山市の広報誌「広報つやま」の中で道路清掃車の写真とともに協会の協力が紹介されるなど、地域で高く評価されている。津山支部では今後も、企業と団体が一体となった社会貢献活動の一環として継続し、道路清掃を通じて、道路の大切さや道路の環境美化意識の向上を図り、建設業のイメージアップに取り組んでいく方針である。



支部所有の道路清掃車（スイーパー）



津山市広報誌で紹介



清掃活動の様子

## クリーンアップ作戦で地域をきれいに！（社）山口県建設協会柳井支部

山口県建設協会柳井支部では、「青建会」のメンバーが中心となり「環境美化活動」を行っている。青建会は、30年前に柳井地域にある建設業者の2代目など20名程で発足したグループで、当初は、各地のダムや高速道路、トンネルなどの建設現場見学や、勉強会を通じて知識・見識を広めるための活動を行っていた。

環境美化活動は、平成9年に田布施の河川公園清掃からスタートし、協会員等が参加する恒例行事となっている。平成21年からは、山口県から「公的機関以外が主催する地域活動」として認められており、柳井支部が実施要項を定め、毎年8月10日の「道の日」に実施している。

平成23年の清掃活動には、会員企業32社、約40名が参加、午後5時30分から1時間半にわたり国道188号線と市道の歩道でゴミ収集を行った。今回は延べ6kmの区間で実施したが、ゴミの量は意外に少なかった。その理由の一つには、これまでの活動の成果によって地域の環境美化への意識が高まったことが挙げられる。

この清掃活動は現在では、毎年の恒例行事として認知度も上がっており、県の職員と合同で行う地域貢献活動の一環として、広く市民から支持されている。さらに近年では、年に数回、定例的に清掃活動を行う会社や、毎月のように所在地近くで清掃活動を行う会社もあるなど、協会員企業の中でも地域貢献の意識が高まってきている。柳井支部では、今後はさらに清掃活動の輪を広げていきたいと考えており、現在、清掃作業のエリアや路線を変えて、より広いエリアで地域貢献を行う計画を進めている。



クリーンアップ作戦の様子



クリーンアップ作戦の参加者

### (3) 建設業ふれあい活動

協会及び支部の建設業ふれあい活動として、次の2事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A3-01	岩手県	(一社)岩手県建設業協会 奥州支部青年部会	建設業ふれあい事業
A3-02	長崎県	(社)長崎県建設業協会 対馬支部	第14回 土木の日 in 対馬 2011

#### 事例 A3-01 : 岩手県

#### 建設業ふれあい事業 (一社)岩手県建設業協会奥州支部青年部会)

岩手県建設業協会奥州支部青年部会は、平成9年度から現在まで、奥州市水沢産業まつり実行委員会が主催する「奥州市水沢産業まつり」会場内で、一般市民を対象とした「建設業ふれあい事業」を継続して開催している。

青年部会ではこの活動を通して、将来を担う子どもたちが建設業を理解し、魅力を感じてもらい建設業への意識付けと、一般市民への地域における建設業の役割や貢献活動の様子をPRしている。

平成23年度は10月15日～16日に開催され、青年部会23名によって、バックホーと高所作業車による建設機械試乗体験、風船の配布、高所作業車からの大もちまき大会などが行われた。

今回の産業まつりでの、建設業ふれあい事業ブース来訪者と建設機械試乗者は、延べ500人を超える盛況となった。



高所作業車の市場体験



バックホーの試乗体験



高所作業車からの大もちまき大会



第14回 土木の日 in 対馬 2011 ((社)長崎県建設業協会対馬支部)

長崎県建設業協会対馬支部では、一般の方々に「土木」を身近に感じてもらい、「土木」が地域社会に果たしている役割を理解してもらうため、長崎県対馬振興局、津島市、津島建設業協同組合青年部と共催で「土木の日 in 対馬」を開催している。

このイベントは毎年11月18日の「土木の日」に開催され、子どもから大人まで、見て、聴いて、触って、体感できるものとなっている。

イベント内容は多岐にわたり、ダムや空港の見学、土木関連事業に関するパネル展、土木のお仕事クイズ、保育園・幼稚園児の絵画コンクール展示会、重機へのオペレーター試乗などがある。ほかにも、チーム出場の綱引き大会、フリーマーケットや紅白もちまき大会もあり盛り沢山である。

参加者が紙ボールを投げて、予想距離と実測値との差で順位を決める「測量体験距離当てクイズ」も人気のコーナーの一つで、賑やかなイベントとなっている。

対馬支部では、楽しんでもらいながら土木を感じて欲しいとの思いから、平成10年の初回開催より今回の14回目まで、毎年取り組みを続けている。



「土木の日」パンフレット



重機へのオペレーター試乗



綱引き大会



焼き鳥や綿菓子も手作り



土木関連事業のパネル展

## (4) 社会福祉活動

協会及び支部の社会福祉活動として、次の3事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A4-01	北海道	(一社)旭川建設業協会	1ヶ月早いクリスマス
A4-02	長野県	(社)長野県建設業協会 松筑支部	春季・秋季ふれあい献血活動
A4-03	佐賀県	(社)杵島建設業協会	献血推進活動

### 事例 A4-01 : 北海道県

#### 1ヶ月早いクリスマス ((一社)旭川建設業協会)

旭川建設業協会では、「二世会」が旭川市内の児童養護施設に訪問し、子どもたちにプレゼントを贈る「1ヶ月早いクリスマス」を演出している。

この取り組みは、昭和40年から毎年継続され、今回で46回が実施されているもので、子どもたちは毎年サンタクロースの来訪を心待ちにする養護施設の伝統行事になっている。

今回は児童養護施設「旭川育児院」に、二世会の会長ほか3~4名の会員が訪問した。会員の一人はサンタクロースの衣装に身を包み、文房具屋おもちゃ、ゲームソフトなど、子どもたちが事前に希望したクリスマスプレゼントを贈った。あわせてイチゴのクリスマスケーキも用意して、院児と楽しい半日を過ごし、子どもたちは一足早いクリスマスを満喫した。

旭川建設業協会二世会では、毎年子どもたちが目をキラキラさせながら楽しみにしている様子を見て、今後も継続していきたいと考えている。



活動を紹介した新聞記事 (北海道新聞)



旭川育児院でのクリスマス会の様子

### 春季・秋季ふれあい献血活動（(社)長野県建設業協会松筑支部）

長野県建設業協会松筑支部では、献血活動を地域社会への奉仕活動の一環として位置付け、平成11年度から毎年実施している。高齢化が著しい長野県での献血用血液の自給体制に協力するため、平成17年度からは春、秋の年2回、実施している。

この献血活動は、松筑支部の青年会が中心となって、会員企業の社員や近隣住民、行政機関の職員等に献血を呼びかけて実施しているもので、毎回100名を超える献血協力がある。特に400mLの献血者は全体の9割を超える状況であり、長野県赤十字血液センターからも高く評価されている。



献血の様子

松筑支部は、12年にわたりこの活動を支えてきており、平成23年11月に実施

した第20回目の献血活動では、累計献血者数が2,000人を突破した。松筑支部では記念として、2,000人目の献血者とその前後賞2名を加えた3名を表彰し、さらなる献血活動を呼びかけた。

松筑支部では、今後も「ふれあい献血活動」を継続し、活動を通じて地域社会に信頼される建設業界を目指していく考えである。



移動車両での献血



献血実施2,000人目の表彰式（前後賞を加え3名を表彰）

献血推進活動（社）杵島建設業協会

杵島建設業協会では毎年、佐賀県赤十字血液センターの協力のもと、献血活動を実施している。この活動は例年、協会員全社（25社）と協力会社から多くの協力があり、平成23年には100人以上が参加するなど地域に定着した活動となっている。

平成12年から行っているこの献血活動は、県内の建設業協会の中で最初に始められた活動で、社会貢献活動は会員自らが自主的に行うものとの考えから、企画・運営は会員で構成する企画委員会で行われている。献血参加者へのプレゼントやくじ引きなどは、企画委員がアイデアを出し合って決めている。

杵島建設業協会では、早くから積極的に地域貢献活動を続けてきており、これまで道路やカーブミラーの清掃、ゴミ拾い、献血運動等、幅広く活動してきている。協会役員や会員各社も積極的に協力、参加しており、今後もこれらの活動をバランス良く、継続して行っていく方針である。

**献血のお知らせ**

日時 / 10月18日(火)  
AM 9:00 ~ 11:30  
PM 13:00 ~ 15:30

会場 / (社)杵島建設業協会様

●献血は「重宝」をご利用ください。  
○献血は「重宝」をご利用ください。  
○献血は「重宝」をご利用ください。

いのちをむすぶ、支えあい。  
●献血回献血クラブ登録のお願い  
安全な血液を安定的に患者さんのもとへお届けするため  
・献血の継続がある方で、年齢と性別（年齢別）に適合している方にのみ、献血回献血クラブに登録いただけます。  
・献血回献血クラブに登録すると、献血の回数が増え、献血の回数が増え、献血の回数が増えます。  
・献血回献血クラブに登録すると、献血の回数が増え、献血の回数が増え、献血の回数が増えます。

献血回献血クラブ会員登録！ 佐賀県赤十字血液センター

献血の協力を呼びかける案内



献血の様子

## (5) 啓蒙活動

協会及び支部の啓蒙活動として、次の事例を紹介します。

事例No.	都道府県	協会・支部等	活動内容
A5-01	北海道	(一社)留萌建設協会 萌志会	「小学生への建設業現場見学会」の開催

事例 A5-01 : 北海道

### 「小学生への建設業現場見学会」の開催（(一社)留萌建設協会萌志会）

留萌建設協会の二世会である「萌志会」では、地域での建設業の役割を小学校の児童にも身近に感じてもらうため、出前講座を行っている。「生活を守り、まちをささえる建設業」と題された講座は、児童のそれぞれが現場見学会や測量体験を通して、建設業の仕事内容や目的について学ぶ内容となっている。

今回の出前講座は、萌志会のメンバー15人が、小学校6年生のクラスを訪問して行われた。測量体験では、校庭のピッチャーマウンドの高さや距離を、測量器具を用いて測ったり、GPSで学校の位地を測定するなど、現場で行う作業の一端を体験した。児童たちは、ミリ単位で高さが測れることに驚き、感想文では「建設業に興味が出た」等、建設業界への理解が深まった様子である。

留萌建設協会では、今後も継続して建設業のイメージアップに取り組んでいく。



教室で出前講座



工事現場での説明



建設機械の操作体験



工事現場の見学